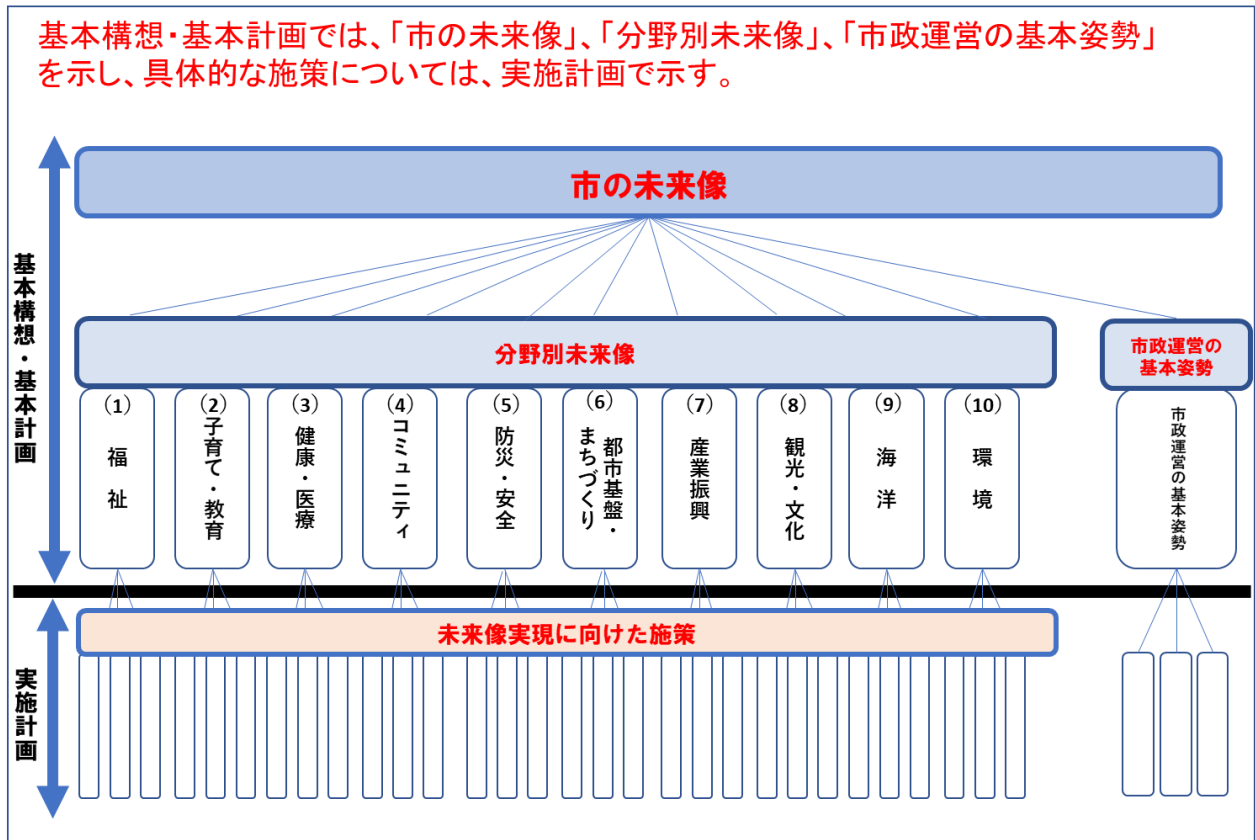


次期基本構想・基本計画 ((仮称) YOKOSUKAビジョン2030)

【草稿 (たたき台)】

計画構成 (イメージ)

基本構想・基本計画では、「市の未来像」、「分野別未来像」、「市政運営の基本姿勢」を示し、具体的な施策については、実施計画で示す。



C O N T E N T S

第1章 市の未来像

- 1 市の未来像
- 2 未来像実現に向けて持っていたい価値観

第2章 2030年の展望

- 1 本市の現状と課題
- 2 今後予測される社会生活・潮流の変化
- 3 それぞれの主体に求められる姿勢

第3章 分野別未来像

第4章 市政運営の基本姿勢

第5章 YOKOSUKA ビジョン 2030 について

第6章 資料編

1 章

市の未来像

1. 市の未来像
2. 未来像実現に向けて
持っていたい価値観

1 市の未来像

（1）【未来に向かって進んでいくスローガ的な表現】

- ④変化をチャンスに変えるまち。横須賀市
- ⑧逆境を力に変える。横須賀市
- ⑯変わらないために変わるまち。横須賀
- ⑱未知への挑戦を続ける街。横須賀市

（2）【全ての人に馴染みやすく、共有しやすい表現】

- ③誰もが心豊かで健康で暮らせる都市
- ⑥海と緑と人が共生するまち
- ⑨地域愛やコミュニティが育まれる都市
- ⑩人と文化と自然が調和したまち
- ⑪誰もがいきいき暮らすまち。よこすか
- ⑫誰もが幸せを感じるまち
- ⑬海と緑、幸せあふれるまち。横須賀
- ⑭多様ないのちが輝くまち。よこすか
- ⑮海と緑の恵み、人が輝き挑戦しつづけるまち。よこすか
- ⑰いつまでも安心・安全で快適に暮らせるまち。よこすか

（3）【横須賀の都市の姿を想起させる表現】

- ①国際海の手文化都市
- ②国際海洋文化都市
- ⑤一人ひとりが輝くまち海に開かれた国際観光都市
- ⑦自然豊かな環境共生都市

【キーワード1（特別委員会からの提案事項より抜粋）】

海（海洋、海の手）、自然、共生社会（人と人、人と自然）、協同、創造
新しい生活様式や社会経済活動の変化（コロナ禍を念頭に置いたもの）、稼げる自治体、
自立した自治体、人材育成、若者、多様性、幸せ、住み続けたい街、挑戦、あらゆる変化に対応、
支えあい、安全安心

【キーワード2（小中学生、高校生 ワークショップ、アンケートより抜粋）】

綺麗な海・まち、豊かな自然、歴史・文化、親切、協力して助け合う、交流、活気、
田舎過ぎず都会過ぎない、のんびり、平和、仲よし、オンライン、AI

【キーワード3（市民ワークショップより抜粋）】

デジタル化、地域力、インクルーシブ、交流、共に成長、人間らしさ、持続可能、アップデート、
横須賀らしさ、地元愛、繋がり、挨拶、人の温かさ、ゆったり、海、山、自然

（参考）市の未来像【事務局案】

パターン（１）【未来に向かって進んでいくスローガンの表現】の場合

変化を力に進むまち。横須賀市

住んでいる皆が幸せを感じる。

人生どの場面であっても横須賀で暮らしてきて良かったと思える。

いつの日か横須賀に帰ってきたくなる。

2030年、こんなまちになっていたらどんなに素敵だろうと思う。

横須賀は変わる。

人口は減り、少子高齢化は更に進んでいるかもしれない。

街を去る若者もあり、空き家は更に増加しているかもしれない。

そして世界はより不確かで複雑さを増していくだろう。

変わることで生じる未知の結果に、不安を感じるのは自然なことだが、
悲観ばかりするのだけはもうやめよう。

変化とは、かけがえないチャンスだ。

それはたとえ逆境であっても未来を動かす原動力になる。

未来に悲観する40万人より、自信と連帯をもつ35万人の方が強い。

私たちは、2020年の出来事から改めて学んだことがある。

都会にはない豊かな自然環境。

開国から始まる歴史や文化。

その環境で育まれた、人と人との絆、助け合いの心、人情。

先人たちが築き上げてきた、横須賀の奥底に宿るこの価値は、

変化の中でも色褪せず、むしろより一層輝きを放つものだと知った。

他のどのまちも横須賀になることはできないし、

横須賀が他のまちになることもできない。

横須賀にはこの価値を活かした、横須賀にしかできないまちづくり、そして幸せがある。

私たちは前を向き進む。

住んでいる皆が幸せを感じる。

人生どの場面であっても横須賀で暮らしてきて良かったと思える。

いつの日か横須賀に帰ってきたくなる。

変化の先にあるこのまちに向かって。

パターン（２）【全ての人に馴染みやすく、共有しやすい表現】の場合

豊かさを生み出すまち。横須賀

2030年に向けて、私たちが、考え、追い求めることは、“本当の豊かさ”です。
2020年、当たり前が、当たり前でなくなった世界で、気づかされたことがあります。
それは、私たちに必要なのは物質的な豊かさではなく“心の豊かさ”だということです。
そして同時に、私たちは“心の豊かさ”を生み出し、分け合えるものだ信じます。
「環境」を土台に、「ひと」も「まち」も「しごと」も本当に豊かな姿となっていきます。

自由で多様な「ひと」になる

横須賀の力の源泉は、ひとにあります。
一人ひとりが自由で自分らしく輝くこと、その多様な個性が混じりあうこと。
異なるみんなが一つになって、大きな力を作り出していきます。

世界に一つだけの「まち」になる

他のどのまちも横須賀になることはできないし、
横須賀が他のまちになることもありません。
“どこに住んでも同じ暮らし”を目指してきた中、改めてこの事実を見つめます。
風土や歴史を基に、私たちの意志で、ここにしかないまちをつくっていきます。

楽しいが「しごと」になる

私たちは、何のためにしごとをするのでしょうか。
働く意味、生きる意味を問い直すと、“楽しい”に行き着くのかもしれません。
横須賀では自分が楽しい、相手も楽しい、そこからしごとが生まれていきます。

「環境」と共にある

私たちは環境の中に生きています。
身近な環境、世界の環境、今の環境、未来の環境。
空間も時間も超えて、誰もが環境の一部であることを意識します。

パターン（3）【横須賀の都市の姿を想起させる表現】の場合

国際海洋文化都市

横須賀には、東京湾・相模湾それぞれが特性を持つ他都市でもあまり類を見ない特別な海、温暖な気候、豊かな自然環境、鎌倉時代の三浦一族の史実や開国期を彩った歴史と文化の資産、多くの外国人の居住による国際的雰囲気と市民レベルで広がる国際交流などの地域資源があります。

これらの地域資源は、私たちが活用するだけでなく、発展させながら未来へ引き継いでいく必要があります。

このため横須賀市は、2030年の未来像を「国際海洋文化都市」として定め、海という可能性に溢れた地域資源を中心にして、人と自然が同じ環境で生きていることを再認識し、様々な文化、価値観を持つあらゆる主体と協働し、心と知恵と力をあわせ、これからの横須賀を創造していきます。

未来像の実現に向け目指す、「ひと」「まち」「しごと」「環境」のそれぞれの未来の姿。

ひとの未来

住み慣れた地域で、誰もが自分らしく幸せに、いつまでも健康で過ごせる。

また、多様な人々と共に生涯を通じて互いに育てあい、学びあい、成長しあう。このような地域での関係性がつくれるまちを目指していきます。

まちの未来

まちづくりを、地域の多様な力をもとに行っていきます。

いざという時の備えを万全にした上で、誰もが安心して自分自身の暮らしを愛せる、横須賀にしかできないまちづくりを目指していきます。

しごとの未来

海洋、研究開発機関、歴史、文化、環境など、あらゆる横須賀の地域資源を活用し、横須賀ならではのしごとを創出していきます。

また、しごとでも遊びでもワクワクできるまちを目指していきます。

環境の未来

横須賀の豊かな自然環境を次世代に引き継いでいくためにも、環境を自分ごととして捉え、いつもの暮らしの行動一つひとつが、地球の未来に繋がってきくという意識の醸成を目指していきます。

2 未来像実現に向けて持っていたい価値観

人口減少、少子高齢化、加速度的に進化する AI や IoT、地球規模での環境変動、新型コロナウイルスの影響による新しい生活様式や社会経済変化への対応など、不透明で変化の激しい時代のなかにあっても、未来像を実現するために横須賀市に関わる全ての人と共有したい大切な価値観、忘れてはいけない心です。

(1) 個性を大事にします

美しい海や緑の豊かな自然環境、日本の近代化の先駆けとなった歴史遺産、日常的に外国人が行き交う国際的な雰囲気、田舎過ぎず都会過ぎない街の温かさなど、市民が愛し誇りに思う、心に刻まれている横須賀ならではのまちの個性。

この「横須賀らしさ」、他の都市にない独自性、視点を大事にします。

(2) 変革、創造し続けます

想像もできない変化や様々な課題や求めに応じ暮らしやすいまちづくりを進めていくためには、今までどおりのものの見方や考え方、方法を踏襲していくのではなく、常に変革し続けていくこと、新しい価値を生み出していくことが必要です。

先人たちは、これまで勇気と気概を持ちこの都市を創造してきました。今ここにある私たちも未来の横須賀に向け、勇気をもって「変革」「創造」をし続けていきます。

(3) 思いやりを持ち続けます

一層大事にしなければならないのは、市民一人ひとりが互いの存在意義を認め合い、困っている人がいれば自然と助け合える、愛情に溢れた人の温もりが感じられる、横須賀ならではの人間関係です。

相手を心から思いやる、大切にする。皆で手を携えて、市民一人ひとりの幸せを追求していく、すなわち「誰も一人にさせない」という強い思いを持ち続けます。

変化が激しく先が見通しにくい時代の中にあっても、これらの価値観を持っていれば、人々が一歩を踏み出す勇気となり、困難を乗り越える原動力になると考えています。

2 章

2030 年の展望

1. 本市の現状と課題
2. 今後予測される
社会生活・潮流の変化
3. それぞれの主体に求められる姿勢

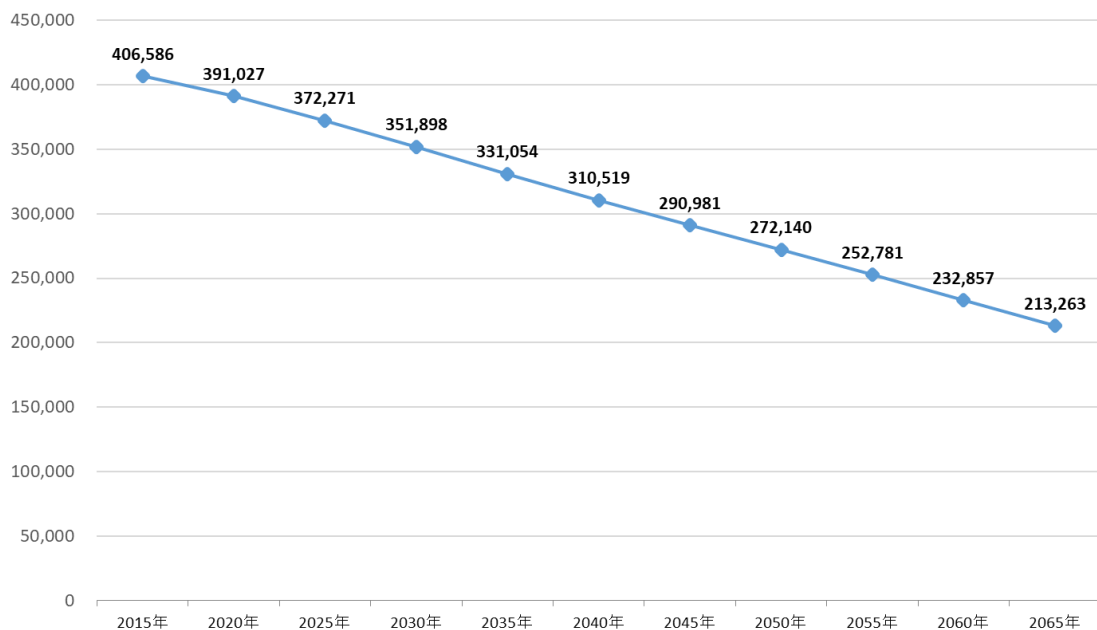
1 本市の現状と課題

(1) 人口の見通し

① 将来推計人口 総数

平成 27 年（2015 年）の国勢調査結果を基準とした将来推計人口では本市の人口は今後も減少傾向が続き、2030 年には約 35 万人に、20 年後の 2040 年には 31 万人になることが見込まれます。

図 1：将来推計人口の推移



② 将来推計人口推計 年齢4区分

将来の人口を年齢4区分（年少人口（0 - 14 歳）、生産年齢人口（15 歳-64 歳）、老年人口（65 歳-74 歳）、75 歳以上）で見ると、年少人口、生産年齢人口については減少が続くことが予測されるなか、老年人口のうち 75 歳以上人口については 2025 年まで増加することが見込まれます。

また図 3 のとおり各年齢区分別、男女別の人口構成を人口ピラミッドで見ると、全体の規模の縮小が見て取れます。特に将来の支え手となる若い世代の縮小が顕著になることが予測されます。

一方で、近年の健康寿命が延伸している現状を考慮し、生産年齢人口の年齢区分を 69 歳まで広げた仮定で推計すると、2040 年の生産年齢人口比率は 61.3%となり、2015 年の現在の定義での率 58.8%より高い状況となります。

図2：年齢4区分将来推計人口の推移

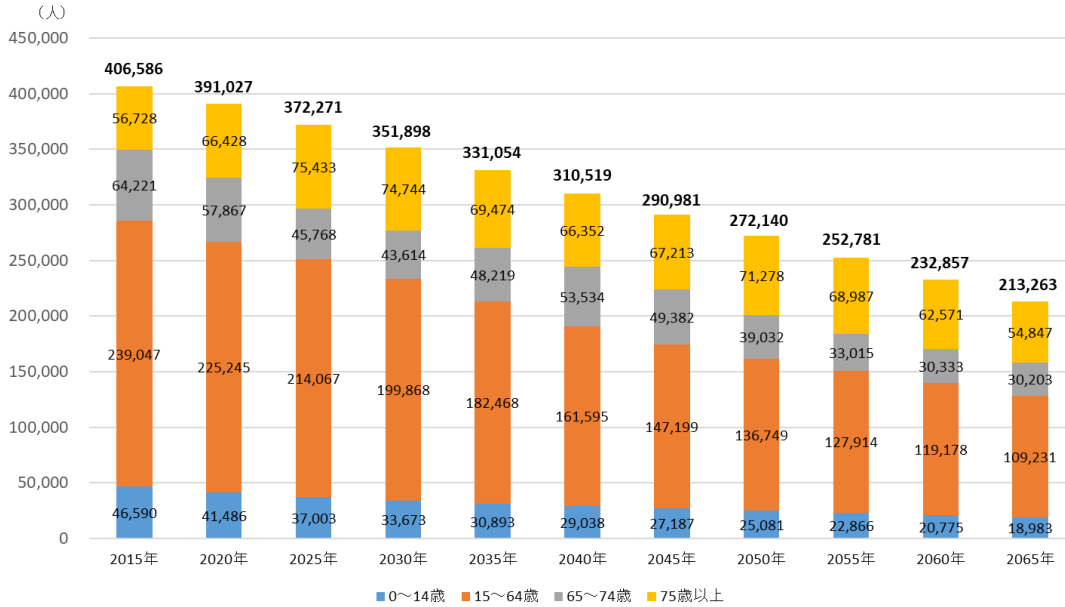


図3：男女別将来推計人口ピラミッド（2020年～2040年）

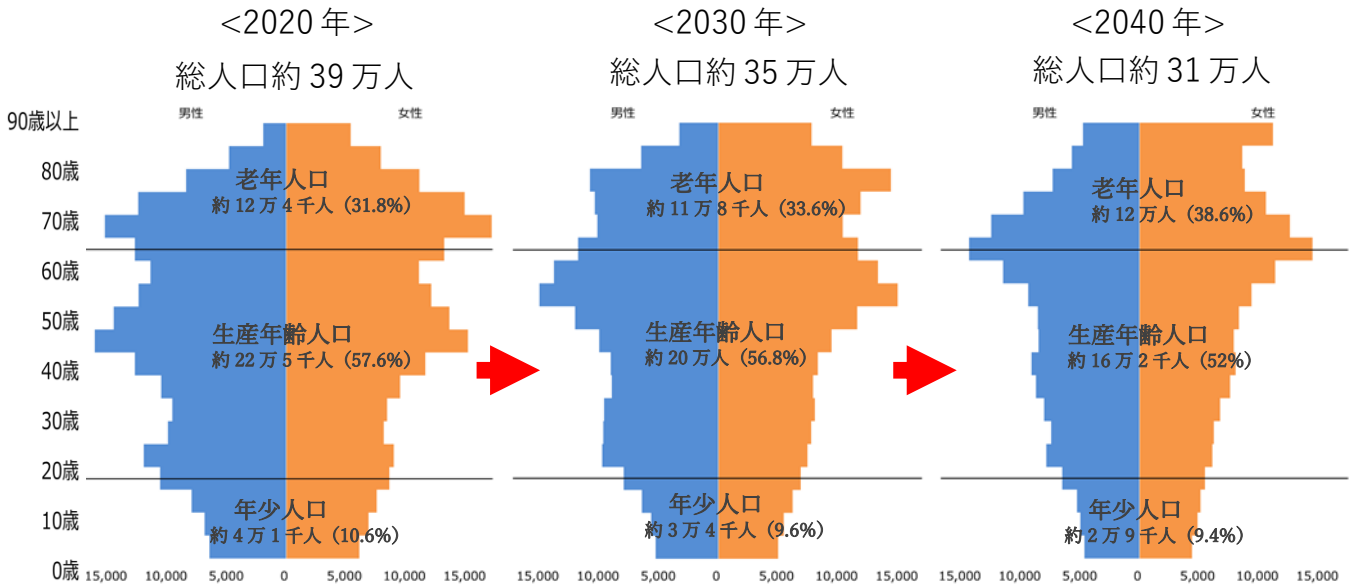


図1～3：国立社会保障・人口問題研究所

「日本の地域別将来推計人口2018年推計」を基に作成

(参考) 将来推計人口をもとに生産年齢人口の年齢定義を変えた場合の人口比率

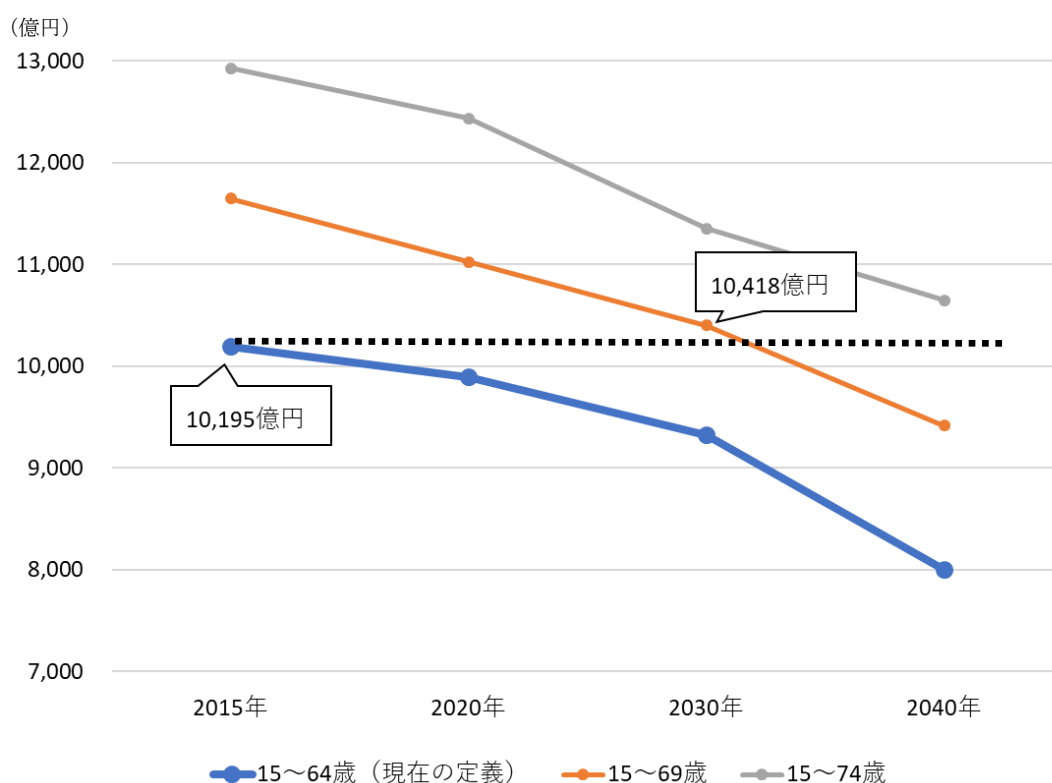
生産年齢人口の年齢定義	2015年	2020年	2030年	2040年
15歳～64歳 (現在の定義)	58.8%	57.6%	56.8%	52.0%
15歳～69歳	67.2%	64.2%	63.4%	61.3%
15歳～74歳	74.6%	72.4%	69.2%	69.3%

③ 将来推計人口をベースにした横須賀市の GDP の試算

人口減少が進む中で、本市の現状の GDP がどこまで維持できるかどうかを、生産年齢人口と関連付けて試算しました。

生産年齢人口の年齢区分を 69 歳まで広げた仮定で推計すると、2030 年の GDP は、2015 年とほぼ同額が維持できることとなります。

図 4：生産年齢人口の年齢定義を変えた場合の横須賀市の GDP の参考推計



【参考】横須賀市 GDP 推計方法：

- ① 「横須賀白書 2016」において推計した 2011 年度の横須賀市の GDP（約 1.1 兆円）と生産年齢人口から、市民一人あたりの GDP（4,163 千円）を算出。
- ② 神奈川県 の 2006 年度～2017 年度 12 年間の各年の GDP と生産年齢人口から、各年の県民一人あたりの GDP を算出。各年の対前年増減率を求め平均した。（年平均 0.6%増）
- ③ ①で算出した市民一人あたりの GDP に、②で算出した増減率の平均（0.6%増）を毎年乗じて、2040 年までの市民一人あたりの GDP を推計した。
- ④ ③に、推計値を含む生産年齢人口の値を乗じて、2015 年度以降における横須賀市 GDP を推計した。

（例：2015 年度の GDP の推計式）

$$4,163 \text{ 千円} \text{【2011 年の市民 1 人あたり GDP】} \times (1.006)^4 \text{【4 年間の GDP 成長率】} \\ \times 239,047 \text{ 人} \text{【2015 年の市内生産年齢人口】} = 10,195 \text{ 億円}$$

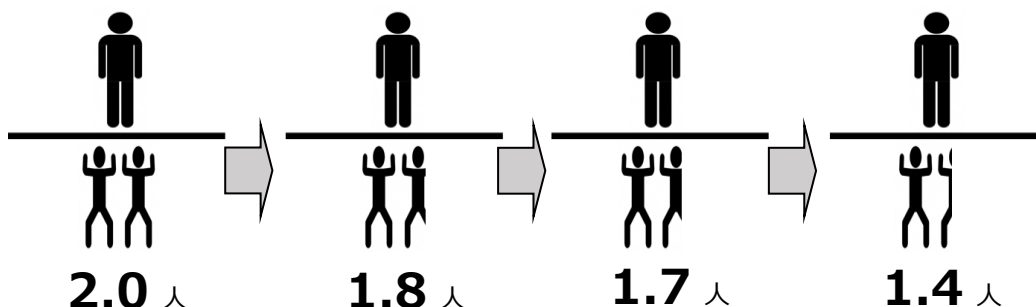
④ 将来推計人口をベースとした、高齢者一人を現役世代何人で支えるのかの考察

2015年の時点では、支え手（生産年齢人口）2人で1人の高齢者を支えている状況です。このまま推移すると、2030年には1.7人で支えることとなります。

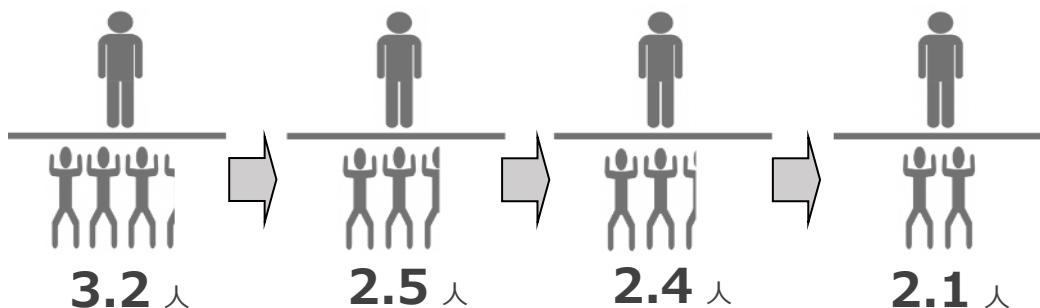
仮に生産年齢人口の年齢区分を69歳まで広げた場合、2030年は、2.4人で支えることになり、2015年の現在の定義での支え手の人数を上回ることとなります。

2015年 2020年 2030年 2040年

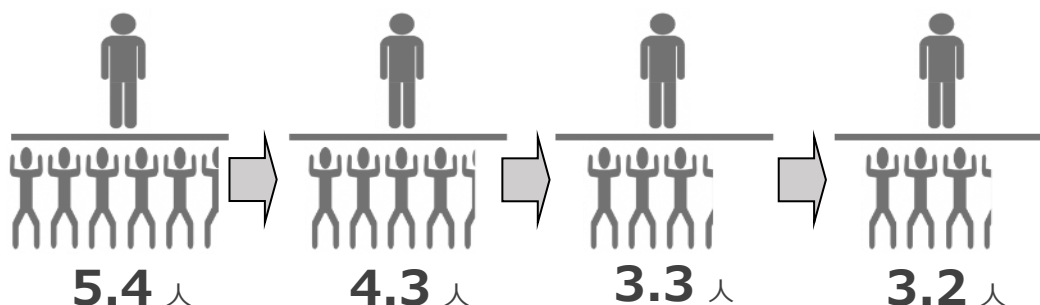
(ア) 生産年齢人口：15歳～64歳（現在の定義）【高齢者65歳～】



(イ) 生産年齢人口：15歳～69歳【高齢者70歳～】



(ウ) 生産年齢人口：15歳～74歳【高齢者75歳～】



(参考 全国の推計)

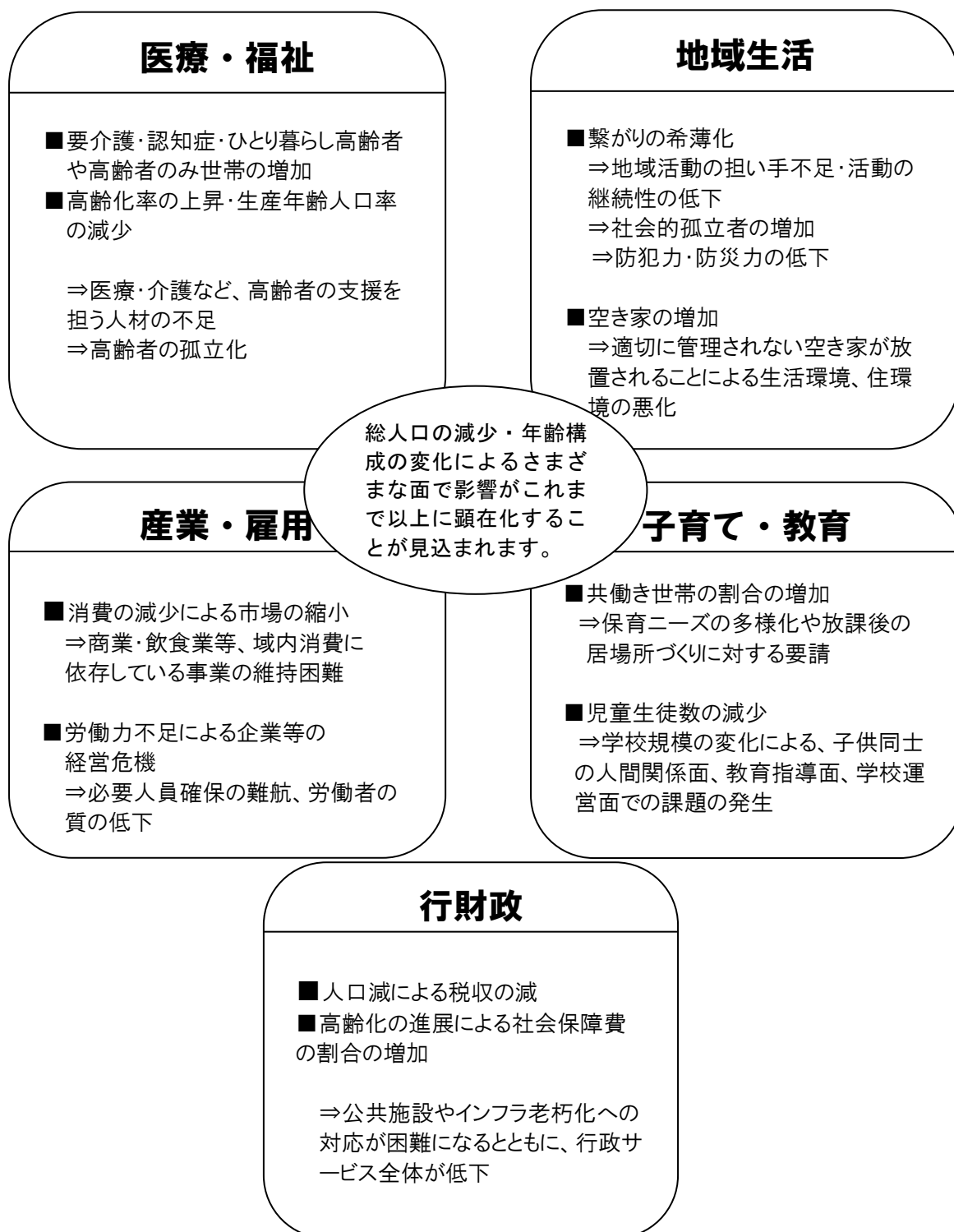
・生産年齢人口：15～64歳【高齢者65歳～】

2015年は支え手2.3人で1人、2030年は1.9人で1人の高齢者を支える推計。

(2) 総人口の減少、年齢構成の変化がもたらす地域社会への影響

現在また将来的な総人口の減少、年齢構成のアンバランスが見込まれる中で、地域では様々な課題が表出しています。また市の財政運営にも大きな影響を及ぼしています。

今後、こうした課題がさらに顕在化してくることが見込まれます。また、新たな課題への対応も必要になってきます。



2 今後予測される社会生活・潮流の変化

新型コロナウイルスの影響や、AI、IoT 等テクノロジーの進化などにより、今後予測される日本の社会生活・潮流の変化

(1) リモートワークの定着等による働き方・暮らしの変化

①働き方の変化

- ・介護業や建設業、小売・飲食業といった労働集約型の業種以外では、固定化したオフィスの必要性、需要が弱まり、毎日オフィス（職場）に通うという概念がなくなる。
- ・オフィスは社員を結び付け、企業風土の形成を促す場として再定義される。
- ・自宅周辺のコワーキングスペースや自宅のオフィス化（書斎等）の需要が高まる。
- ・ハンディキャップのある方々も働きやすい、社会参加がしやすい環境となる。

②暮らしの変化

- ・住まいの選択において、通勤の利便性のウェイトが弱まり、ある程度好きな場所で暮らせるようになる。それにより地域自体の魅力、住環境、自然環境、地域の繋がりなどがより価値を持つことになる。
- ・市や町や村という単位よりも、例えば素敵な見晴らしのある居心地の良い場所など、局地的な場が選ばれる。
- ・会社での人間関係よりも、親しい友人との人間関係、近隣との人間関係、家族との人間関係に比重が置かれることになる。
- ・年齢や男女差による賃金格差の縮小傾向が強まることで、家庭内において、経済的にパートナーに依存するという傾向が弱まり、家族の関係性が変わる。
- ・近隣との人間関係、家族との人間関係が濃密になるとともに、それにより生ずるトラブルも深刻化する。
- ・通勤に費やすエネルギーが仕事やプライベートに振り向けられるようになる。
- ・情報化社会の先のセーフティネットは、極めて古典的な地域のコミュニティとなる。

(2) 子育て・教育環境の変化

- ・共働き世帯割合は更に増加。出生数は減少していくものの、女性の就労が一層進むことにより、保育サービスの需要が減少しない可能性がある。母親の就業状態に関わらず安心して妊娠・出産できる環境、出産後に子どもを育てやすい環境が引き続き求められる。

- ・リモートワークの定着や男性向けの育休促進策等で男性の育児参加が促進する。
- ・子育ての負担を、IoT やビッグデータなどの先進テクノロジーが軽減するようになる。
- ・ティーチングに主眼を置いていた教師の役割がコーチング的なものに代わっていく可能性がある。
- ・オンライン教育の普及により、学校間の教育格差が薄まっていくのとは逆に、情報通信環境による格差が顕在化してくる。また十分な環境整備が行われなまま、通信インフラに依存した教育が主流になれば、経済的格差による教育格差が顕在化する可能性がある。
また、オンライン教育においては、自主的に学習できる生徒とそうでない生徒との、学力格差が生ずる可能性もある。
- ・学校に通うという概念が変わり、住まい選択の際の、「通学の利便性」のウェイトが弱まる。
- ・長寿化に伴いこれまでの、教育、就労、老後の3ステージの人生ではなく、人生100年を前提とした人生設計が必要な時代となる。(2007年に日本で生まれた子供の半数が107歳より長く生きると推計している研究結果がある。)
人生100年という長い期間をより充実したものにするためには、幼児教育から小・中・高等学校教育、大学教育、更には社会人の学び直しに至るまで、生涯にわたる学習が重要となる。

(3) 購買行動、観光消費の変化

- ・地域に密着した小商圏型の店舗がより力を持つ。
- ・オンラインでの買い物が定着する。他方、オンラインで買うのか、近所のごひいきの関係性がある店から買うのかの二極化が進む可能性がある。
- ・買い控えの状況に慣れ、持たなくても良い、買わなくてもよいという風潮が強まり消費行動の質はかなり精査される。
(今までの7~8割の経済活動の総量の世界になる可能性もある)
- ・オンラインで完結する事が多くなることで、リアルで過ごす時間をより濃く感じるようになり、その価値は高まっていく。

(4) まちづくりの変化

- ・少子化や、各地で進む拠点市街地の一層の衰退等により、都市経営の効率性を重視する上では、歩いて暮らせるコンパクトな集約型都市構造のまちが求められる。
- ・一方で、リモートワークの浸透等により、ある程度好きな場所で暮らせるため、拡散型社会となることも見込まれ、その舵取りが重要となる。
- ・これまでのような駅を基点としたまちづくりとは違った、自宅から徒歩や自転

- 車で移動できる圏内で働いたり、生活したりするまちづくりの視点も求められる。
- ・地域に密着した、どんな用途にも使える建築物、例えば昼間はオフィス、夕方は飲食など、目的によって柔軟に運用できる空間が求められる。
 - ・通勤や買い物などの移動が減少する一方で、散歩や健康のための楽しむ移動が相対的に増加し、歩行者空間の重要性が見直される。
 - ・パーソナルな移動空間を求める風潮から、バス・鉄道・飛行機など公共交通機関の利用者が減少する。
 - ・拡散型社会では、街が孤立する可能性を考慮する必要がある。リスク回避のために、外部からの物流やエネルギー供給に依存しない、地域完結型のまちづくりが求められる。
 - ・増大する災害リスクへの対応や渋滞の解消等、現状の交通課題の解消を図り、国際競争力を高めつつ持続可能な社会の構築を図るため、中枢中核都市等を核としたブロック都市圏間をつなぎ、その間の交流・連携を促進させる道路ネットワークが形成されていく。
 - ・障害者・高齢者・女性の働き手の増加や日本に住み働く外国人の増加、LGBT 等への理解の深化などにより、様々な人材が都市内の様々な場所で活躍することが当たり前になり、個人個人で異なる価値観への相互理解も進んでいく。また、多様な人々が集い、出会い、交流を通してイノベーションを生み出す都市が、競争力のある魅力的な都市となる。
 - ・2018年に空き家数 848 万 9 千戸、空き家率 13.6%であったものが、2033年には、空き家数 2,170 万戸、空き家率 30.4%になるとの推計がある。
 - ・2016年に全国に登記のある土地のうち 410 万 ha (20.3%) の土地が所有者不明となっているが、それが 2040年に 720 万 ha (28.1%) になるとの推計がある。

(5) 健康・医療の変化

- ・拡散型社会になることにより、地域における医療の不足が改めて問題となる。医療における ICT の活用が大きなテーマとなる。
- ・オンライン診療が定着する一方、フィジカルな対応が必要となる救急医療体制等は、住まい選択の際の重要な判断材料となる。
- ・少子高齢化、人生 100 年時代の中では、働き続け、心身ともに豊かな人生を送るために、自分の健康維持に意識的になる人が増える。
- ・精神的な病気が増加する中、メンタルヘルスケアはすべての人に必要なものという認識が広がり、自分の心の健康のセルフチェックや対処を行う個人や、従業員の心の健康をケアにより力を入れる企業が増加する。

(6) 経済・産業の変化

- ・国境を越えるサプライチェーン（部品の調達、製造、在庫管理、配送、販売）分断に対する警戒から、一部で自国回帰する流れが起こる可能性がある。一方で、更にグローバルに分散化する可能性もある。
- ・中小企業での M&A が活発になる。必要となる技術の伝承のためには、それを誘導する政策が求められる。
- ・企業は危機に備え投資を抑制し、内部留保をため込む方針を選ぶ可能性がある。
- ・エッセンシャルワーク（医療・福祉・小売・公共交通など）を除いて、対面で行う仕事の比重は低下していく。一方で、オンラインや、在宅の作業を便利にする領域の産業が大きく伸びる。
- ・企業ターゲットにしていたサイバー攻撃が、個人に対しても活発になる。そのジャンルへの対応産業も伸びる。
- ・パーソナルスペースでの移動ニーズの高まりは、自動運転（タクシー）の開発・普及を後押しする。
- ・イベントや会議のオンライン開催が増えていき、VR 上の 3D 空間を用いて会場の再現度を高めるニーズや、様々なデバイスの遠隔操縦等、高度なオンライン化ニーズが高まる。これにより多方面で 5G の活用がより進んでいく可能性がある。
- ・他人とのモノや空間の共有を前提とするシェアリング産業は短期的には厳しい状況になる可能性がある。
- ・技能や特技を売買するスキルシェアリングサービスは、副業解禁等の働き方改革が進む中で、広がっていく可能性がある。
- ・生存のために必要な戦略的物資の国内自給率向上のため食料生産の意識が高まる。
- ・Society5.0 の実現を目指し、高度人材の獲得競争が激しくなることや、就業構造の転換、労働移動が発生することが想定される。従来の業種の垣根を越えて、先端技術やデータを活用した製品、サービスの開発を行うことになる。

(7) 環境に対する意識等の変化

- ・日本全体で、2050 年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指すという国の目標に従い、行政、企業、市民に、脱炭素につながる活動・行動が求められるようになる。
- ・脱炭素社会への移行に向けて再生可能エネルギーの普及が更に進んでいく。発電した電力を買い取る制度による売電単価が下がっていく中で、今後、電力の自家消費や蓄電への移行が広がる。
- ・日本では 2030 年半ば以降、国内の新車販売は電気自動車（EV）やハイブリッド車（HV）などガソリン車以外にする目標を設定する方向で調整している。海外でも同様の動きがある。

- ・短時間豪雨、台風の大規模化、猛暑による熱中症の増加など、地球温暖化に伴う被害・影響が顕在化している中で、気候変動による被害・影響を最小化あるいは回避するための適応策に、今後更に取り組むことが求められるようになる。
- ・経済成長一辺倒ではなく、自然豊かで良好な環境で健康に暮らすことができる社会を求める価値観が一般的になり、自然環境が有する多様な機能を賢く利用したインフラ投資や、土地利用計画を進めるグリーンインフラの考え方が広がる。
- ・SDGs（2015年9月国連にて採択された「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」）で設定された2030年までの17のゴールとその課題ごとに設定された169のターゲットへの取り組みが、国際的に求められている。
- ・SDGsの考え方の広まりや、企業の環境面、社会面等への配慮を投資の判断材料とするESG投資の拡大などにより、環境を意識した行動を行う企業や市民が増える。
- ・海洋プラスチックによる海洋汚染は地球規模で広がっており、世界経済フォーラムの報告書（2016年）では、2050年までに海洋中に存在するプラスチックの量が魚の量を超過すると予測されている。

（8）安全に対する意識等の変化

- ・近年、異常気象による豪雨や地震による大規模災害が発生している。今後もそのリスクの増大がより危惧されるようになる。その結果、地域の災害に対する安全性も、住まい選択の際の判断材料となる。
- ・高度経済成長期以降に整備されたインフラの老朽化が進む。これらが適切に管理されずに老朽化が進んだ場合、事故の発生や防災、防犯上の問題に繋がるおそれがあるため、長寿命化やより効率的な管理が必要となり、IoTやAI等の新技術も活用されるようになる。
- ・緊急事態を想定し、公共スペースや建築物をどんな用途にも自由に使えることが求められる。

（9）自治体行政等の変化

- ・Society5.0の実現に向け、社会全体で、AI、IoT、ロボット等を最大限活用していくことが求められる。当然自治体にも、自身でそれらの技術を行政サービスや行政運営に活かしていくことが求められる。
また、その社会を支えるネットワークインフラの重要性、国民生活・社会経済活動への影響力は、ますます大きくなっていく。
- ・人口減少に伴い、2040年頃には半分の職員数でも担うべき機能が発揮されるスマート自治体への転換が求められる。このためには、新たな公共私協力の構築や、先端テクノロジー（AI、IoT、ロボットなど）を徹底的に使いこなすことや、情報システム等の自治体行政の標準化・共通化が必要になる。

- ・人口減少に伴い、自治体の持続性を確保していくためには、個々の市町村が行政施設をフルセットで持つという考えから脱却し、圏域単位での整備・活用について考えていく必要がある。
- ・防災や医療、介護など、遠隔地との助け合いが必要な行政分野も存在する。圏域を超えた広域分散型の自治体連携は、行政サービス提供の持続可能性を高め、地域間の新たな人の流れの創発につながる。
- ・オンライン技術の実用化やリモートワークの進展により、企業の本社機能の移転が進んでいるなか、自然災害や感染症に備えて、国会や中央省庁を含む社会機能も地方への分散が進む可能性がある。

3 それぞれの主体に求められる姿勢

(横須賀が一つになって未来に向かう)

本市では少子高齢化に伴う人口減少が進展しており、この傾向が今後も続くことは明らかな状況にあります。

また、今後の行政運営においても人口減少に伴う市税収入の減少や社会保障関連費の増加、公共建築物やインフラ施設の老朽化に伴う維持修繕・更新費など、財政状況は厳しさを増していくことが見込まれます。

こうした状況のなかでも、これまで行政の責務として、多様化、複雑化する市民のニーズに可能な限り応えていくという姿勢のもと、必要な組織体制をつくり、また人や税といった資源を投入しサービスを提供してきました。

今後も、市民の安全・安心や困っている人、悩みを抱えている人の支えとなる基礎的施策はしっかり取り組む一方で、これまでと同じ考え方で取り組むことで、肥大化する恐れのある行政組織やサービスを、見込まれる人口規模に合わせてサイズダウン（小規模化）し、「選択と集中」や、「量から質への転換」を図っていく必要があります。

行政には、サイズダウン（小規模化）によって、サービスの質を落とすことの無いよう、その運営にAIやIoT、ロボットなど最先端のテクノロジー（デジタルトランスフォーメーション）を取り入れ、効率的にサービスを提供しながら、市民サービスを向上させていくことが求められます。

また、職員には、市民の皆様のことを我がことと考え、その思い・ニーズや、時代の変化を的確に把握し、どうすればできるかを自ら考え、スピード感と熱意をもって行動することが求められます。

一方、市民、地域団体、事業者等の皆さまには、これまでも、自助、共助、公助の観点から、自立した生活、活動をしていただきましたが、今後はこれまで以上にそれぞれの力を高めていただくこと、自律性を高めていただくことも想定されます。

将来を見通すことが困難な厳しい状況が続くと思われませんが、そうした時こそ横須賀の未来に向けて「協調と連帯」の精神のもと、市民・地域団体・事業者・行政といったそれぞれの主体が共に歩を進めて、未来を切り開いていくことが必要です。

3 章

分野別未来像

横須賀の未来に繋がる
分野ごとの未来像。

ひと

- 1 **福祉**
誰もが自分らしく幸せに生きられるまち
- 2 **子育て・教育**
いくつになっても育てあうまち
- 3 **健康・医療**
健康がすぐそばにあるまち

まち

- 4 **コミュニティ**
多様な力でつくるまち
- 5 **防災・安全**
繋がりと備えが安心を生むまち
- 6 **都市基盤・まちづくり**
誰もが暮らしを愛せるまち

しごと

- 7 **産業振興**
失敗を恐れない挑戦者を応援するまち
- 8 **観光・文化**
ワクワクがあふれ出すまち
- 9 **海洋**
可能性だらけの海を活用するまち

環境

- 10 **環境**
「自分ごと」の意識が未来を守るまち



「ひと」の未来

福祉分野

誰もが自分らしく幸せに生きられるまち

子育て・教育分野

いくつになっても育てあうまち

健康・医療分野

健康がすぐそばにあるまち

これら分野での2030年の横須賀の日常の一コマを描いた
未来の物語



朝、車いすで家の近所を散歩した。以前よりまちに段差が少なくなり、車いすの性能も良くなったのでより自由に外出できるようになった。「おばあちゃん、おはよう」地域の小学生が挨拶してくれた。「気を付けて行くだよ！」横断歩道を渡るまでそっと見守った。このまちでは、誰もがあいさつしてくれるし、声をかけてくれるから、毎日の外出が楽しい。

明日はデイサービスの日だ。最近では、施設でも病院でもロボットが活躍している。施設の職員の方も負担が減ったようで、会話する時間が増えたとし、皆の笑顔も増えたような気がする。高齢者も職員としてエネルギーにバリバリ働いていて、こちらも元気がもらえる。行くのが楽しみだ。

スマートフォンが鳴って、健康診断の案内が来た。必要なタイミングで、必要な情報が来る。便利になったものだ。それに、電子カルテによって、私の病歴や、飲んでいる薬が記録されているので、どの病院でも診察がスムーズだ。自宅でも遠隔診療が受けられるし、病院も近くにある。いざという時は、いつでもお医者さんに診てもらえるという安心感を持って生活できている。

とは言え、自分でできる健康管理も大切だ。先日、地域の大学生が開催する、体調管理端末の使い方を教えてくれる講座に参加した。これをつけてみると、自分の血糖値や血圧がリアルタイムで分かって、適切な運動や食事を勧めしてくれる。参考にすれば、運動が日課になり、健康的な生活が維持できそうだ。

来週は、小学校で子どもたちに、地域の歴史について話すことになっている。私の他にも、外国人、障害者の方など、色々な立場の人たちと関わり合う機会を増やすことで、子どもたちの中で、自然と、個性を認め合ったり、他者を思いやる姿が見られるようになり、結果として、いじめが少なくなったと学校の先生が教えてくれた。横須賀の自然を活かした独自の教育も全国的に注目されていると聞く。

教室では、子どもたちが、当たり前タブレットを使って勉強していて、先生は児童生徒一人ひとりを見守っている。とても世の中が変わったと感じる。

しかし、世の中が変わっても、変わらず大切なものがある。横須賀に残っている人と人との繋がり、地域の絆だ。その大切さ、自分の育ったまちの良さを、次の世代に伝え続けていきたい。

1 福祉

誰もが自分らしく幸せに生きられるまち

すべての人は生まれながらに「幸せになる権利」を持っています。幸せに届かない「何か」があるならば、その声にしっかりと耳を傾け、皆で手を取り合ってサポートしていく。これこそが横須賀の考える福祉です。

福祉は特別なものではありません。社会で生活している誰もが福祉の対象なのです。この考えをもとに、少子高齢化の先進都市である横須賀ならではの福祉を追求していきます。

- 誰もが福祉の受け手であり担い手である

福祉は特別なものではありません。高齢者や障害者だけでなく、社会で生活している人たちが誰もが福祉の対象です。福祉を覆っている固定観念、「意識のバリア」を打ち破り、誰もが福祉社会の一員であるという意識を醸成していきます。

- 横須賀の福祉は適度なおせっかいから始まる

日々の生活に不安を抱えている方々に寄り添い、誰一人社会から孤立させない。すべてのひとが地域社会の一員として社会に関わり、誰もがどこかにつながるためにまず必要なのは、適度なおせっかいの心です。その心を絶やすことなく、そこから始まる包括的な支援体制を整備し、共に前に進んでいきます。

- 新しい福祉サービスを追求する

テクノロジー等を活用し、社会に対して新しい産業や価値を提案する福祉、今以上に多くの人々が働きたくなる福祉現場など、少子高齢化の先進都市である横須賀「だからこそ」考えられる未来へ繋がる福祉を追求していきます。

■政策方針案

1 地域における支え合いの基盤づくり

- ① 困りごとや悩みを持って暮らしている人の存在に気づいた人が、地域の関係機関につなげられるよう、情報共有のあり方を検討します。
- ② 困りごとや悩みを持って暮らしている人を、地域ごとにどうやって見守っていくか、その地域と一緒に考えていくとともに、行政、地域といった線引きや、助ける人、助けられる人という垣根をなくして、地域の中で問題を解決できる仕組みを充実させていきます。

2 包括的な支援体制の構築

- ① 新しく生まれる困りごとや悩みごとに対応した福祉サービスを考え、提供していきます。
- ② 新しい情報技術(ICT・AI)も使って、福祉サービスを必要としている人に、必要なタイミングで情報やサービスが行き届く仕組みを作ります。
- ③ 支援を必要とする人が、地域でその人らしく生活できるようにするため、社会復帰、自立、社会参加の促進についての相談支援体制を充実させていきます。

3 多様な担い手の育成・参画の推進

- ① 地域の人が行っている活動を、地域の人や、他の地域の人たちにしっかり伝えることで、これまで参加していなかった人の参加を促し、担い手のすそ野を広げていきます。
- ② 高齢・障害・子ども等福祉の各分野における人材の育成・確保のため、専門職等に対する研修を充実させます。
- ③ 介護施設など福祉関係の施設で働く人の負担軽減のため、業務の効率化につながる、IoT・センサー等のICTツールや介護ロボットの導入を促進し、誰もが働きやすく、人にしかできない対面型ケアに集中できる職場環境の構築を後押しします。
- ④ 福祉等に関する知識や能力を持った人が、その経験や知識を共有できる場をつくり、潜在的な人材やスキルの活用推進を図ります。

4 心のバリアフリーの推進

- ① すべての人がみんなで支え合って生活できる地域社会をつくるために、共に生き、共に支え合う社会づくり(ソーシャル・インクルージョン)の考え方や、他人に対する思いやりの心や多様性を尊重する意識を醸成していきます。

■主な実施計画事業

- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~

イメージ写真・イラスト



【関連する主な分野別計画】 地域福祉計画、高齢者保健福祉計画、障害者計画

2 子育て・教育

いくつになっても育てあうまち

育つことと育てること、教わることと教えることは、共に人を成長させる素晴らしい機会です。

我々には、人生の様々な局面でその両方の機会が訪れます。

そのチャンスを家庭や学校だけではなく、より多くの人に提供し、人生 100 年時代、人生を通して、誰もが成長の喜びを感じられるような**サイクル**を作っていきます。

➤ 安心して子育てができる環境づくり

横須賀で子どもを産みたい、そして育てたい。そう思えるように、安心して子育てができる環境を実現します。

妊娠前から、妊娠・出産・子育て期までの切れ目ない支援を行うとともに、経済的な格差や家庭環境によって、未来ある子どもたちの大切な機会が奪われる事がないよう、取り組みを進めていきます。

➤ 未来社会を自立的に生きる力を育成します

急激な社会変化の中でも、その変化を前向きに受け止め、自立的に生きるために必要なのは、人間性の豊かさと基礎学力です。

その両方をバランスよく取り入れた横須賀らしい教育を進めていきます。

➤ 子どもも大人も地域も共に育つ

学校・家庭・地域が一体となり、**すべての人が関わって**、みんなで子どもを育てる環境づくりを進めていきます。

地域には多様な経験を積んだ人が暮らしています。地域資源も活用し、子どもや大人、さまざまな人に教える機会や教わる機会、活躍の機会を提供していくことは、子どもだけでなく、大人も地域も共に育つことに繋がります。

➤ 新たな子育て・教育のあり方とは

オンライン教育の導入など、社会の変化に即した教育環境を整備していきます。また少子化に対応した、新たな子育て、教育のあり方を探求していきます。

■ 政策方針案

1 地域ぐるみの子育て・学び合いの活性化

- ① 学び合いや、子育て支援に繋がるネットワークづくりを進めるために、さまざまな世代や多様な人々と交流する機会や場を地域に設けていきます。
- ② 子どもや大人関係なく、生涯を通じて学び続け成長することを目指し、横須賀さらには三浦半島の歴史・自然・文化など、三浦半島全体の地域資源を活用した学びの場をつくっていきます。

2 子どもの健やかな成長を地域で育むまちづくり

- ① さまざまな子育てニーズや、ライフスタイルに対応した保育サービスを、誰もが受けられるようにします。
- ② 妊娠する前から子育て期にわたるまで、切れ目ない支援や、子育てをしやすい地域・社会づくりを進めていきます。**経済的な格差を含め**、特に支援を必要とする子どもとその家庭には寄り添って支援していきます。
- ③ 子どもたちが将来に希望を持ち、たくましく健やかに育つ力を持てるような環境づくりを、市民、事業者、市役所など、みんなで一緒に進めていきます。
- ④ ICTの導入により、子育て支援サービスの向上だけでなく、保育園など保育関係の施設で働く人が、より働きやすくなるようにします。

3 自立し、多様な人々と共に社会で活躍できる力の育成

- ① 学校教育の中で、子どもたちが時代や環境の変化に対応するための思考力・行動力や、自分の価値を見出し、人生を切り拓く力を育成します。また、異なる他者への寛容の心を育む実践的な取り組みを進めます。
- ② 子ども一人ひとりの状況に応じて、個別に最適な学習の進め方を考えていきます。

4 持続可能で魅力ある学びの環境づくり

- ① 教職員の多忙化を解消し、子どもと向き合う時間を十分に確保できるようにします。
- ② 1人1台端末をはじめとした学校教育のICT環境の整備を進めます。
- ③ 社会教育において、オンライン展示・講座等の工夫により学習意欲を呼び起こします。
- ④ 少子化や、学校施設の老朽化等に対応し、市全体の教育環境の向上に取り組んでいきます。

■ 主な実施計画事業

- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~

イメージ写真・イラスト



【関連する主な分野別計画】 子ども未来プラン、教育振興基本計画

3 健康・医療

健康がすぐそばにあるまち

住み慣れた地域でいつまでも健康で過ごすためには。

充実した医療の提供基盤に加えて、自分にとって最良の主治医は自分であるという考えのもと、一人ひとりの健康寿命延伸の取り組みが必要です。

ライフステージに応じた健康増進の取り組みを進め、ゆりかごから墓場まで、自分らしく安心して過ごせるまちを目指します。

➤ 健康と充実した医療の提供基盤が安心を生む

市民の健康、医療にかかわる関係機関と積極的に連携を図り、先端技術も取り入れることで、住み慣れた地域に必要な健診や医療を受けつつ、健康に過ごせる仕組みを更に充実させます。これにより、全ての人により安心して暮らせるまちにしていきます。

➤ いくつになっても元気でいきいきと輝く

先端技術も活用し、心と体の健康のための、啓発活動、健康管理、相談体制の充実を図ります。

また、スポーツ等の健康活動を通じ、人と人との繋がりをつくっていくことで、生涯を通じて心身ともに健康でいられるまちを目指します。

➤ ゆりかごから墓場まで

あらゆる分野のリモート化の進展は、住む場所の制約を無くしていくでしょう。

しかし、充実した医療体制と必要に応じた福祉体制。この世に生を受け、住み慣れた地域で生涯を終えるためには、この二つは地域に必要不可欠なものとして残ります。

これがある横須賀。今後その輝きは更に増していきます。

■政策方針案

1 人生 100 年時代に向けた健康づくり

- ① 生活習慣病の予防や、がんなどの疾病の早期発見のため、定期的な検診の受診を促進します。また、ICTも活用して、市民が自身の健康状態を把握し、自ら健康を意識した行動がとれる環境づくりを推進し、健康寿命の延伸を図ります。
- ② 健康を保つため、食事や運動などの生活習慣の改善と、生涯を通じた健康活動の実施・継続、社会参加を促します。

2 心の健康を守る社会づくり

- ① 心の健康を守るために、ストレスをためない、ためさせない社会づくりの普及啓発と、早期かつ多面的な相談しやすい体制をつくっていきます。
- ② 自殺は「誰にでも起こり得る危機」であることを意識し、誰かに援助を求めること、相談窓口があることを周知するとともに、自殺対策を支える人材の養成などを行います。

3 感染症対策と公衆衛生の推進

- ① 新型コロナウイルスを含めた、あらたな感染症の流行を想定した体制づくりや、日常的な感染症予防や公衆衛生の維持を徹底します。

4 安心して暮らせる医療体制の構築

- ① 新市立病院の整備や、市内の医療機関同士の連携をより深めることで、地域医療体制をより充実したものにします。
- ② 遠隔診療や医療・介護ロボットなどの新しい技術を積極的に活用することで、人は人にしかできない対面型のケアに集中できるようにし、いつまでも地域で安心して暮らせる医療体制を作っていきます。

■ 主な実施計画事業

- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~



【関連する主な分野別計画】 健康・食育推進プラン、自殺対策プラン



「まち」の未来

コミュニティ分野
多様な力でつくるまち

防災・安全分野
繋がりと備えが安心を生むまち

都市基盤・まちづくり分野
誰もが暮らしを愛せるまち

これら分野での2030年の横須賀の日常の一コマを描いた
未来の物語



私たち家族は、数年前、東京のマンションから横須賀に引っ越してきた。私も妻も、リモートワークが中心で、家で仕事ができるスペースが必要になったのと、東京にはない豊かな自然環境に憧れたからだ。

住んでみて初めて分かったこともある。地域の人と人との繋がりの強さだ。東京のマンションに住んでいた時は、近所のことはよく知らなかったし、興味もなかったけど、横須賀に来てからは、昔からある地域でのお祭りや行事に参加し、そこから年齢、性別問わず多様な人々との繋がりが広がっていった。仕事も買い物も大抵の事がオンラインで済ますことができる世の中では、地域における対面での関係性は貴重なようで、東京の友人からは凄くうらやましがられる。最近では「日本一地域が仲良しなまち」といわれているとか。

オンラインで回覧板が回ってきた。来月、地域の防災訓練があるようだ。今年も家族で参加しよう。訓練が行われている避難所の小学校は、耐震性も確保されていて、いざという時安心だ。訓練では様々な他都市の災害の事例や、横須賀市の過去の事例をVR等も使って学べ、災害を正しく恐れるとともに、「自分ごと」として考えられるプログラムになっている。学校でも防災教育が行われ

ており、息子を通じて学んだことも多い。また、参加したことで事前の備えや、自分が災害から身を守ることの学びに加えて、近所や地域で助け合うための繋がりもできた。自分の家の周りで助けが必要な人も分かっている。隣の一人暮らしのおばあちゃんは車いすなので、私たち家族と一緒に避難所へ向かうことになっている。後で顔を見がてら声をかけておこう。おばあちゃんには、たまに息子を預かってもらっている。お互い様だ。

友人からは、東京から引っ越して不便はないかとよく聞かれるが、中心市街地は再開発で綺麗に整備され、私の住んでいるまちとの間の交通ネットワークも整備されている。自動運転バスなど新たなモビリティも活用されている所もあるようだ。

自動運転車の普及により、高齢者の事故も減り、移動の安全性も高まっている。

また、周辺の都市との間の道路事情も良くなった。周辺都市とは競争ではなく、共栄を目指していると聞く。こんなところも横須賀らしいと思う。

横須賀は田舎と都会が程よく共存しているまちだと思う。それを「中途半端。」という人もいるかもしれない。しかし、私にはこのぐらいが「ちょうどいい。」

4 コミュニティ

多様な力でつくるまち

リモート化の進展により、オンライン上での交流が活発になる一方、リアルな対面での交流の場面は、今までの職場や学校といった単位から、地域や家族といった単位に変わりつつあります。

こうした流れの中で、地域には、触れ合い、助け合いがある、繋がりの強い近助の精神を持ったコミュニティが求められます。

近隣他都市より町内会の加入率が高く、地域コミュニティの力が強いと考えられる横須賀は、この面が強みとなります。

先人たちが築き上げた、この繋がりを次の世代に受け継いでいく、そして多様性を認め合い、住民自治の力の向上を図ることで、更なる価値をつけていくことが、横須賀の飛躍へと繋がります。

➤ 繋がる仕組みをつくる

様々な世代、地域の人との交流の輪を広げ、そこで出会った仲間と楽しみながら暮らすことは、地域の活力を高め、魅力ある地域の創造にも繋がっていきます。

その中で育った多様な担い手と共に、未来に繋がる持続可能な地域社会を構築する。この仕組みをつくっていきます。

➤ 多様性が生む、新たな地域のカ

私たちは一人ひとり、性別・障害・人種・国籍・門地・年齢、**そして考え方も違い**、同じものを見ても、まったく違うことを感じます。その多様性を受け入れ、認め合うことで、違いを学びに、力に変えることができます。

この力により、地域社会をもっと豊かにしていきます。

■政策方針案

1 いきいきと暮らせる横須賀らしい地域づくり

- ① 平和を希求し、お互いを認め合い、共に生きる寛容な社会をつくっていきます。
- ② 人権が尊重され、ジェンダー平等など、誰もが当たり前に分らしく生きられるまち、地域・社会で活躍することができるまち、繋がることのできるまちづくりを進めます。

2 持続的なコミュニティ機能の充実

- ① 福祉、教育、環境、安全・安心、まちづくりなどさまざまな地域活動の原動力であり、世代間交流の推進役である町内会・自治会や市民公益活動団体などへの支援を充実させます。
- ② 地域の特性や実情に合った魅力あるコミュニティづくりを進めます。
- ③ オンライン上でのコミュニティづくりを進め、新たなコミュニティ形態の構築や、繋がりや重層化を図ります。

3 地域の多様な担い手づくりの推進

- ① 地域コミュニティを維持していくために、さまざまな世代や多様な人々が交流する機会や、拠点となる場を積極的につくっていくとともに、ICTも活用し、参加しやすい、参加したくなる環境づくりに取り組みます。
- ② 地域参加への意識の醸成、地域内の人・世代間のつながりを強化します。これにより、まちづくりの担い手育成と、ネットワークづくりを促進することで、担い手不足の解消を目指していきます。
- ③ 地域活動を地域住民によるボランティアに頼るだけでなく、地域外からも支援できる仕組みを検討します。

■主な実施計画事業

- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~



【関連する主な分野別計画】

人権施策推進指針、男女共同参画プラン、市民協働型まちづくり推進指針、市民活動促進指針

5 防災・安全

繋がりと備えが安心を生むまち

安心と安全。

大切なのは、それが脅かされたときに、最悪の事態を避けられる体制を作っておくこと。平時だからこその、日常的な備えや地域の繋がりの構築が大事です。ハード面での都市基盤・都市構造の整備・強化に加えて、この意識を醸成していきます。

➤ with 災害。だが災害に負けない

近年の風水害の頻発化、激甚化や、高い確率での発生が予測されている**首都直下地震**などに備え、災害を常に身近なものとして意識する必要があります。

また、その被害は未然に防ぎたいですが、防ぎきることはできないのも事実です。

そこで必要となるのが、被害を最小限に抑える減災の考え方であり、被災しても機能不全に陥らないまちを目指すことです。

そのような新たな観点からライフラインを強靱化し、いかなる事態にも対応可能な行政力を構築することで、被災後の速やかな復旧、復興を図ります。

➤ 地域の繋がりが、地域の安心と安全に繋がる

安心や安全は、災害や犯罪に強い都市構造だけでは約束されません。

日頃から防災や防犯に「自分ごと」として向き合えるか。また、地域の人同士がどれだけ繋がりを合えているか。災害や犯罪に対する自助や共助などの体制が必要不可欠です。

横須賀市は、都市基盤や、都市構造を整備・強化するだけでなく、こうした意識の向上や、繋がりの強化を促進していきます。

■政策方針案

1 災害に強い、しなやかなまちづくりの推進

- ① 災害が起こった時に、経済活動や行政活動などを維持していくために、災害に強いライフライン、都市施設、市街地の整備とBCPの策定を進めます。
- ② 災害対策は、予防、応急、復旧・復興といった順番で考えていく必要があります。災害が発生した際に人の命を守り、迅速な復旧・復興を目指すためにはどうすればよいか、日頃から考え、計画的に体制づくりを進めます。

2 防災・防犯の自分ごと化の推進

- ① 災害や犯罪による命の危険や財産の被害を最小限に抑えるためには、まず、これらを「自分ごと」として意識し、一人ひとりが「自分の身は、自分で守る」という「自助」の認識のもと、行動する必要があります。
この意識をみんなに持ってもらうため、災害や犯罪に対する正しい知識と体験を持つことを目的とした、防災教育と普及啓発に取り組みます。

3 「自助・近助・共助・公助」の連携による安全で安心なまち

- ① 災害や犯罪に強いまちにするため、ICT 技術も活用し、「自助」に加え、近所の人で助け合う「近助」や、地域で助け合う「共助」を促進します。
- ② 消防・救急体制の充実、警察や自衛隊など関係機関との連携、SNS の活用も含めた正確な災害・防災情報の提供を進めることで「公助」の体制を強化します。

4 安心して日常生活を送るための環境づくり

- ① 消防・救急・救助、防犯に加え、交通安全、消費者保護などの対策を推進することで、安心して日常を送るための環境をつくれます。

■ 主な実施計画事業

- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~



【関連する主な分野別計画】
危機管理指針、地域防災計画、国民保護計画、国土強靱化計画

6 都市基盤・まちづくり

誰もが暮らしを愛せるまち

まちの姿は人の暮らしを形づくります。

人口減少、少子高齢化の中、コンパクトなまちづくりの視点を持ちながら、地域資源を最大限に活かした、横須賀独自の個性豊かなまちづくりを進めていきます。また、暮らしや人に寄り添った交通環境の整備も行っていきます。

➤ いくつもの暮らし方がある横須賀

拠点市街地での便利な暮らし、海を間近に感じるリゾート感のある暮らし、食や自然を身近に感じる農村型の暮らし、独特の閑静な雰囲気や景観をもつ谷戸の暮らし、美しい街なみの中で快適に暮らせる住宅団地の暮らしなど、横須賀には多様な暮らし方があります。様々な分野でのリモート化が進展した未来を見据え、それぞれの暮らしや地域の魅力を再発見し、最大限に引き出していきます。

➤ 地域に応じた個性ある交通環境

他都市との連携を活発にする広域幹線道路の整備や、暮らしの利便性を高める市街地同士のネットワーク化により、都市間、地域間の繋がりの強化を図ります。また、徒歩、自転車、車、バスなどの交通環境をそれぞれの地域の個性に応じて整備することに加えて、急な坂や階段などの地形的特徴や、高齢化による移動の課題を克服する新しいモビリティの活用を支援を行うことで、誰もが自由に移動できるまちを目指していきます。

➤ 可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約・統合

国際情勢の推移や防衛施設の利用状況等を見極め、効率的な土地利用の推進を図るため、可能な限りの米軍基地の返還と自衛隊施設の集約・統合を国に要請します。また、返還施設は、都市活力の創造に向けて、旧軍港市転換法に基づき、早期に転用します。

■ 政策方針案

1 拠点ネットワーク型都市づくりの推進

- ① 拠点市街地は、再開発等によって都市の機能を集積し、周辺市街地は、生活サービス機能及び居住機能の集積を図ります。
- ② 幹線道路の整備や公共交通網の再編により、拠点市街地と周辺市街地のネットワーク化に取り組みます。

2 地域資源を活かした多様な暮らし方のあるまちづくり

- ① ゆとりとうるおいのある住環境がより注目される中、その住環境を維持・保全するとともに、ICT も活用し、各地区での居住ニーズに応じた施策を展開することにより、多様なライフスタイルの選択を可能にするまちづくりを進めます。

3 総合的な交通政策の推進

- ① 周辺都市とのアクセスを強化し、発展・共存していくため、都市と都市をつなぐ国道 357 号の延伸や、圏央道、三浦半島中央道路の整備などを進めます。
- ② 時代の変化に応じた地域交通の確保や、その地域の特性にあった持続可能な交通体系の構築を進めます。

4 快適な暮らしを支えるインフラの維持・整備

- ① 道路や上下水道などの施設を適切に管理することで、安全・安心な日常生活や社会経済活動を支えます。
- ② インフラのサービスレベルの維持・向上を図るために、ICT・AI 等の積極的な活用を進め、限られた財源で効率的な維持管理体制を構築していきます。

■ 主な実施計画事業

- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~

イメージ写真・イラスト



【関連する主な分野別計画】

都市計画マスタープラン、立地適正化計画、水道事業・下水道事業マスタープラン



「しごと」の未来

産業振興分野

失敗を恐れない挑戦者を応援するまち

観光・文化分野

ワクワクがあふれ出すまち

海洋分野

可能性だらけの海を活用するまち

これら分野での2030年の横須賀の日常の一コマを描いた
未来の物語



私は、横須賀の高校を卒業後、東京の大学に進学し、そのまま東京の企業に就職したが、去年、横須賀の企業に転職して地元に戻ってきた。中規模の企業だが、とても技術力があり、これからの社会にチャンスを見いだせると考えたからだ。

会社では、前職の経験を生かして、主にデジタルトランスフォーメーションの推進を任されている。デジタル化によって、今の業務の中で、だいぶ楽になる部分が出てくるし、ネット販売を活用すれば、市場は日本全国、世界へと広がっていく。

今日は、新ビジネスを検討する勉強会に誘われたので参加した。YRPに立地している企業や横須賀にある様々な研究開発機関の方と意見交換できたし、リモートワークが進んだおかげで横須賀を拠点にしている若手のIT技術者やプログラマーもいて、話しを聞くことができた。少子高齢化が進む横須賀では、介護や医療のICT化をはじめ、他にも防災、モビリティ、ゼロカーボンなど、様々な分野でビジネスチャンスがあることと、豊かな自然環境の中で仕事ができることが知られて、近年ベンチャー企業が集まってきている。色々な分野の人の話を聞くと刺激を受ける。

私の会社の技術とも融合できそうなアイデアがあり、挑戦していきたい気持ちがふつふつと湧いてきた。

考えを整理するために、会場の周りを散歩してみた。まちはきれいで、緑や花も植えられていて気持ちいい。そして、音楽とアートが溢れ、BMXやストリートダンスをしている人や、様々な国籍の人々が風景に溶け込んでいる。散歩するだけでワクワクするまちだ。SNSで知ったが、このような文化と、横須賀の自然と歴史を繋げた、横須賀でしか体験できない、オンリーワンの観光が今熱いらしい。オンライン化した世の中だからこそ、人々はリアルで重厚な体験を求めているのだとか。少し誇らしい気分になる。

覚悟が決まった。その場で上司とオンライン会議を行い、すぐに公開プロジェクトを立ち上げた。勉強会で会ったメンバーから次々に参加表明があった。来週から忙しくなりそうだ。せめて週末は思いっきり趣味のウィンドサーフィンを楽しもう。上達のため、実はワールドカップ出場選手にコーチをして貰っている。働く場と遊ぶ場所がこんなにも近い。贅沢な環境だ。

7 産業振興

失敗を恐れない挑戦者を応援するまち

既存の産業を支えつつ、そこに新たな技術や分野との融合によるイノベーションを促進し、生ずるビジネスの多様性や付加価値を横須賀の強みとしていきます。

また、既存の企業や研究開発機関等の新たなチャレンジに加えて、これを補完する起業家の挑戦、連携を後押しする体制も整えていきます。

- まずは既存事業者が輝けるまちであること

地域に根差した農水産業、企業、商店が横須賀のまちを支えています。個性豊かな中小企業や商店が元気な横須賀の象徴です。一方、社会は大きくそして早く変化しています。そのような環境の中で、今まで培ってきた価値ある技術に加えて、新しい技術の活用や人材育成などによって、既存事業者の生産性の向上や新事業の展開など新たな一步を生み出す支援を行います。

- ビジネスチャンスは横須賀にあり

横須賀には「society5.0 時代」において、社会実装などに必要不可欠な技術を持つ先端技術施設及び研究開発機関や企業が集結しており、国内外の最先端の研究が行われ、多くの優れた研究者が集積しています。このようなフィールドで、まだ誰も挑戦していない未開のビジネスや、実験的なプロジェクトの挑戦者を積極的に後押しし、連携の手助けもしていきます。

このように新たなビジネスを創造し、受け入れる環境を整えることで、企業や投資を呼び込み、「稼げる自治体」へ向け進んでいきます。

- 働く人を主役に考える

横須賀の産業を持続可能なものにするための、産業を支える人材の育成、確保を支援していきます。

さらに、多様化する働き方や生き方に合わせた労働環境の整備も支援していきます。

■政策方針案

1 既存企業の持続的発展と新たな集積促進

- ① 既存企業の DX(デジタルトランスフォーメーション)導入等による事業の効率化や新ビジネスへの取り組みを促し、持続的な発展を支援します。
- ② 企業立地のための環境を整備し、進出した企業の周りに他の企業が集まること、既存企業と進出企業とのつながりから新たなビジネスが生まれることを促します。

2 人材の確保・育成による事業継続の支援

- ① 人材の確保と育成を図るため、中小企業と求職者とのマッチング、人材のスキルアップなど企業と働く人の双方を支援していきます。
- ② 意欲ある企業の廃業を止め、優れた技術やノウハウを継承するため、事業継続や事業承継の支援体制の強化を行います。
- ③ 横須賀の若者が地元企業の魅力や働くことの魅力について知る機会を作ります。

3 新しい社会の実現を目指した連携

- ① society5.0 時代を目前に控え、多くの研究開発機関が集積している横須賀のポテンシャルを生かし、本市企業の優れた技術力とそれらの機関との連携や、事業者の参入や起業を促し、新たな研究開発・製品開発等を支援します。

4 多様な働き方を可能とする場の整備と誘致

- ① 時間や場所に縛られない多様な働き方が広がっている中で、自然に恵まれた環境、生活利便性などを生かして、ワーケーションやサテライトオフィスなどの多様な働き方ができる場が増えるよう支援します。

5 魅力あふれる農水産業の振興と付加価値向上への取り組み

- ① 横須賀の農水産物の認知度・イメージアップや、販路拡大、新しい技術の導入などを支援し、更なる付加価値の向上を目指します。

■主な実施計画事業

- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~

イメージ写真・イラスト



【関連する主な分野別計画】 中小企業振興プラン、観光立市推進基本計画

8 観光・文化

ワクワクがあふれ出すまち

横須賀のあらゆる地域資源を活かし、音楽、スポーツ、エンターテインメント等の力を融合させて、身近にそれらがあふれ、まずは**市民がワクワクし、地元を楽しみ、まちに誇りや愛着**を持てるような仕掛けをつくっていきます。

そこで生まれた熱量は、外にも伝播します。横須賀でしか体験できないこととして、ブランディングや発信を行い、市外からの集客に繋がります。

- 横須賀全体が観光のフィールドになる

特定の施設、特定のイベントだけが観光地ではありません。横須賀全体がフィールドです。あって当たり前だった自然環境、歴史、文化など横須賀の地域資源の発掘・磨き上げを繰り返しながら、横須賀でしか体験できないことを創造、発信していきます。さらに、事業者、関係団体、市民一人ひとりが地元の魅力を認識し、おもてなしの心を持ち、横須賀が一体となって、来てくれた人を楽しんでもらうという意識を醸成します。

- 文化を醸成していく

音楽やアートなどの文化は、様々な世界を表現し、人の心を震わせる力があり、それはどんなに社会環境が変化しても、変わることはありません。

いつでもどこでも文化を感じ、誰もが文化を愛する街でありたい。そして、その環境からさらに音楽やアートの深い世界に挑戦するアーティストを応援し、育てる。彼らに表現の舞台を提供し、送りだしていくことは、その地域の活気にも繋がっていきます。

- 誰もがスポーツに親しむ機会を

プレイヤーとして、あるいは手に汗握る観客として、誰もがスポーツに親しむ機会をつくっていきます。また、ボーダレスに様々な人が楽しめる多様なスポーツの普及やトップアスリートとの連携・交流にも取り組んでいきます。

そして、トップアスリートの活躍を見た人が、自分もチャレンジしてみたい、より上手になりたいという思いにこたえる環境を充実させ、世界で活躍する横須賀育ちの選手を輩出し、みんなで支え応援していきます。

■政策方針案

1 地域資源のブランド化と発信

- ① 横須賀を代表する開国や旧軍港都市の歴史、海や緑の自然環境などの地域資源の魅力を磨くとともに、ストーリー化を図ることで、確固としたブランド力を築きます。
また、既存の地域資源を活用したエンターテインメントの創出や、さらなる地域資源の発掘など、新たな魅力を創造し、観光客の増加を図り、観光を産業の柱の1つとします。
- ② 横須賀の観光・文化の魅力を多くの人に知ってもらうため、新たなコンテンツや技術を活用し、効果的に情報を発信します。

2 観光の担い手との連携による観光基盤の充実

- ① 事業者や市民一人ひとりが自信をもって、観光客をおもてなしすることができる体制をつくれます。
- ② 観光ルートの構築や、その周遊性、快適性の向上、また、魅力ある宿泊施設や飲食施設の充実、レジャーや商品の開発、PRなどに事業者と連携して取り組みます。

3 文化の伝承と醸成

- ① 歴史や風土によって育まれてきた大切な文化を保存し、さらに積極的に活用することで、より良い文化を次の世代に繋ぎます。
- ② 文化に触れる、自ら表現する機会や場を身近に創出し、新たな文化の醸成や才能の発掘を促します。

4 誰もが日常的にスポーツに親しめる環境づくり

- ① それぞれの興味や関心に合わせて、スポーツをする・見る・支えることができる、スポーツが身近にある環境をつくり、心と体の健康を支えます。
- ② スポーツ大会や施設の誘致、プロスポーツチームとの交流や新しいスポーツ文化の創造によって、市民に夢や感動を与えると同時に、市外からの集客による地域の活性化に取り組みます。

■主な実施計画事業

- ~~~~~
- ~~~~~
- ~~~~~
- ~~~~~



【関連する主な分野別計画】 観光立市推進基本計画、スポーツ推進計画、文化振興基本計画

9 海洋

可能性だらけの海を活用するまち

横須賀の海は、特別な存在です。

東京湾・相模湾それぞれが特性を持つ景観、豊かな自然、豊富な水産物やそれを活かした食の場、さらにマリンスポーツ、マリンレジャーに適した環境がある一方、歴史遺産や研究開発機関、国内外の物流拠点となる港湾機能も有し、多様な魅力と可能性を持っています。

この海の多様性は、横須賀にしかない独自のものです。そのことを強く意識し、最大限まちづくりに活用するとともに、次世代に引き継いでいきます。

➤ 東海岸と西海岸。2つの顔を生かしていく

東京湾側に面する東海岸。ここには港湾関係施設のほか、歴史的遺産や世界最先端の研究開発機関が存在しており、そこを周遊できる環境整備や研究開発機関との連携を図っていきます。

一方で相模湾側に面する西海岸には、風光明媚な海岸線や、みどり豊かな自然、豊富な農水産物などがあり、より多くの人々が身近に堪能できるようにしていきます。

➤ 稼ぐ。そして守る

横須賀の海に関わる産業には、無限の可能性が広がっています。

港湾機能の強化、利活用を一層進め、市内産業の活性化につながる攻めのポートセールスを行っていきます。また、水産業については、とる漁業だけでなく、より効率的な展開を目指します。さらに、歴史や自然、マリンスポーツなど、多様な海の魅力を活かした観光の可能性を探っていきます。

一方で、海を守る。それは活用と共に私たちに課せられた使命です。

海とふれあう機会の創出や、海洋教育などを通じて、海への関心を高めるとともに、海への恩返し的心を持ちつづけられる仕組みを構築します。

■ 政策方針案

1 地域経済をけん引するみなとの創造

- ① 横須賀港の立地や将来的な交通網の整備を踏まえ、地域経済に貢献し、国内外の物流を支える港づくりを進めます。

2 海洋資源を生かした賑わいの創造

- ① マリンスポーツや歴史、自然、食などの横須賀の海の魅力をかけあわせて「海洋都市横須賀」のブランディング、賑わいの創造に向け取り組みます。

3 海洋産業（港湾・漁業）のスマート化、新産業・新技術の創造

- ① 海運業をはじめとする物流業界での人材不足や漁業者の後継者問題を解決するため、これら産業の効率化、発展に資するスマート化を進めます。
- ② 海洋をはじめ、さまざまな分野の研究開発機関が立地することを生かし、社会課題の解決に向けた研究の実装、新産業の創出に向け取り組みます。

4 きれいな海づくり・触れ合いの場づくり

- ① 市民や関係する団体等と協力して、海洋ごみ削減に向けた対策や環境教育、海洋教育に取り組みます。
- ② 海の環境再生や市民が海を身近に感じ、触れ合えるための場づくりを進めます。

■ 主な実施計画事業

- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~



【関連する主な分野別計画】

横須賀港湾計画、中小企業振興プラン、環境基本計画、観光立市推進基本計画



「環境」の未来

環境分野

「自分ごと」の意識が未来を守るまち

これら分野での2030年の横須賀の日常の一コマを描いた
未来の物語



横須賀に住んで38年。子どもも少しずつ大きくなって、この子たちが大人になっても、この地域の環境や地球の環境がきれいなままであってほしいという気持ちが強くなってきた。

小さいことかもしれないけど、プラスチックごみ削減のためマイバック、マイボトルを使ったり、食べ残しを無くすようにしたり、環境に配慮している企業を応援するようにした。環境問題を自分ごととして考え、できることからやるのが大事だと、市の広報で知ったからだ。

さらに、横須賀市は「ゼロカーボンシティ宣言」で2050年までの二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指している。

私の家では、太陽光で発電した電気を自動車の蓄電池に貯めて、夜でも、雨の日でも、その電気を使っているし、私が働いているショッピングモールや夫の工場では、施設エネルギーの消費量を見える化して積極的に制御を行うシステムを導入している。2050年だと先のことを感じるけど、このような、みんなの積み重ねが、ゼロカーボンの実現につながると思う。

それに、遊びに来てくれる人がいるのだから、横須賀のまち全体も綺麗にしようという意識をみんなが持ち始め

た。その意識が繋がりを生み、まち中に緑や花を植えたり、海やまちのごみを拾う活動をする人が増えている。海やまちが綺麗になることで、ポイ捨てをする人も少なくなったようだ。地域での環境活動を通じて、住民同士の交流も活性化していると聞いた。

また、リモートワークが進んで、横須賀の自然環境の価値に改めて気づく人も増え、それを求め、引っ越してきた家族が近所にいる。それは壊さず将来に残していかなければいけないと思う。今度、自然の大切さを学ぶために、地域の団体が里山で開催する田植え体験に、その家族と娘を連れて行ってみたい。

学校でも、横須賀の地域資源を活かした環境教育が盛んに行われていて、環境のことは娘の方が詳しいくらい。自然探検で覚えた虫や花の名前や、ごみ処理施設の見学を通じて学んだ、ごみの分別やリサイクルの大切さを、私に教えてくれる。

娘に負けないように、私も環境のことをもっと勉強しよう。その意識がきっと、未来の子どもたちに、きれいな環境を残していくことに繋がるのだから。

10 環境

「自分ごと」の意識が未来を守るまち

持続可能な社会を実現するのに大切なことは、一人ひとりが日常の生活において、環境に関わることを「自分ごと」として考えることです。

この意識の醸成により、横須賀が誇る豊かな自然環境と、快適な生活環境を将来の世代に引き継いでいきます。

➤ 自然環境は横須賀の財産である

恵まれた自然環境が身近にあることは、横須賀の大きな魅力です。

リモートワークが当たり前となった今、その価値は更に高まりを見せています。

このかけがえのない自然環境は、将来の世代に引き継いでいかなければなりません。

この考えのもと、自然環境の保全、創出に取り組んでいきます。

➤ 脱炭素型社会を目指す

地球温暖化は世界の大きな課題であり、それにより引き起こされる気候変動は、人々の生活、そして生態系を脅かすもので、みんなの意識を一つにして対策に取り組む必要があります。

2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指し、市民・市民団体・事業者と連携し、横須賀一体で地球温暖化対策に取り組んでいきます。

➤ できることから行動する

環境問題を「自分ごと」に考えると、自分の生活の中でもできることが見えてきます。食品ロスや毎日のごみを減らす、リサイクルを推進する、エネルギーを節約する、自然を大切にするといった心を持つこと。

一つひとつは、小さなことでも、その積み重ねこそ持続可能なまちの未来への切符です。このような身近な取り組みの推進は、社会の創り手の育成にもつながります。

■政策方針案

1 次世代に残すべき自然環境の保全と活用

- ① 海やみどりの豊かな自然環境を将来の世代に引き継ぐため、身近な自然環境を保全・創出・再生します。
- ② 保水力など自然がもつ、さまざまな機能を活用するグリーンインフラの考え方を、まちづくりに生かします。

2 地球温暖化への対策と気候変動への適応

- ① 家庭や事業所などで再生可能エネルギーの使用や、省エネルギーに取り組むことを促し、みんなで、温室効果ガス排出量の削減に取り組みます。
- ② 二酸化炭素吸収源として、森林や海藻類等を再生・保全・創出・活用する取り組みを進めます。
- ③ 温暖化による気温上昇、ゲリラ豪雨、生態系の破壊など、環境の変化から生じる影響に適応するための取り組みを進めます。

3 循環型社会の形成ときれいで暮らしやすいまちの推進

- ① 廃棄物の減量化、資源化、適切な処理を行い、「3R+1」を推進することで環境への負荷を軽減する循環型社会の実現を目指します。
- ② 横須賀に住んでいる人、訪れた人々が「きれいなまち」と思えるよう、美化の取り組みを進めます。
- ③ 大気、水質、土壌などの生活環境を保全し、安心して暮らし続けられる住みよいまちを目指します。

4 環境教育・環境学習の推進

- ① 環境のために一人ひとりが行動し、持続可能な社会の担い手となるよう、環境について学ぶ機会づくりや情報提供・普及啓発活動に取り組みます。

5 公園の整備・活用

- ① 健康、防災、集客、自然環境の保全など、地域にとってどのような公園の機能が必要であるかを見極め、整備、活用を進めます。

■主な実施計画事業

- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~
- ・ ~~~~~

イメージ写真・イラスト



【関連する主な分野別計画】

環境基本計画、地球温暖化対策実行計画、みどりの基本計画、一般廃棄物（ごみ）処理基本計画、生活排水処理基本計画、

4 章

市政運営の 基本姿勢

市政運営の基本姿勢

このビジョンで描かれた未来像を実現するために、横須賀市は4年毎の「実施計画」をつくります。そして横須賀市は以下を意識した集団であることを目指します。

- 超高効率で健全な行財政運営を行う自治体であること。

デジタルガバメントの推進と共に徹底した行財政改革を行い、安定した財政基盤を確立し、持続可能な行財政運営の構築を行います。

また、デジタルガバメントによって、業務の効率化を図り、今よりも少ない職員でも、より市民の皆様と向き合い、市民サービスの質を向上させていきます。

公共施設については限られた財源の中、需要に応じた適正な規模にしていくとともに、ユニバーサルな社会環境を意識しつつ、施設の利便性を高めていくことを目指します。

- 市民、企業、団体と率先して連帯すること。

このまちを支えるために必要なのは連帯する力です。あらゆる垣根を超えてみんなで連帯する社会を行政が自ら率先して作っていきます。

そのために、多様な関心事やニーズをお聞きし、現状を正確に把握する広聴活動と、必要な情報を分かりやすくお伝えする広報活動を進めることで、信頼関係の構築と合意形成につなげていきます。

また、市という枠組を超え、三浦半島の4市1町など、自治体間の連携も強化します。

- 変化を恐れぬスピード集団であること。

新しい時代を切り開いていくには、変わり続けていく多様なニーズに、最速のスピード感をもって完遂する集団であり続ける必要があります。

そのために、部局の壁を越え、柔軟に連携する組織体制を構築するとともに、市民の皆様へ寄り添いながら、変化を恐れず時代の局面にあった発想ができる職員を育成します。

- 固定観念、先入観を排すること。

限られた職員数で、増大する行政需要に的確に応えるため、仕事のやり方を根本から見直すことで、職員を縛っている無駄なルール、無駄な仕事を一切取り除き、AI等先進技術やビッグデータも積極的に駆使しながら、市民を手続から解放すると共に、現在そして未来の市民のための創造的な仕事に重点を置きます。

働き方も同様です。リモートワークを含めた職員個々に応じたワークスタイルを導入し、ワークライフバランスを重視していきます。

【関連する主な分野別計画】

人材育成プラン、行政改革プラン、財政基本計画、FM戦略プラン、デジタルガバメント推進指針

5 章

YOKOSUKA ビジョン 2030
について

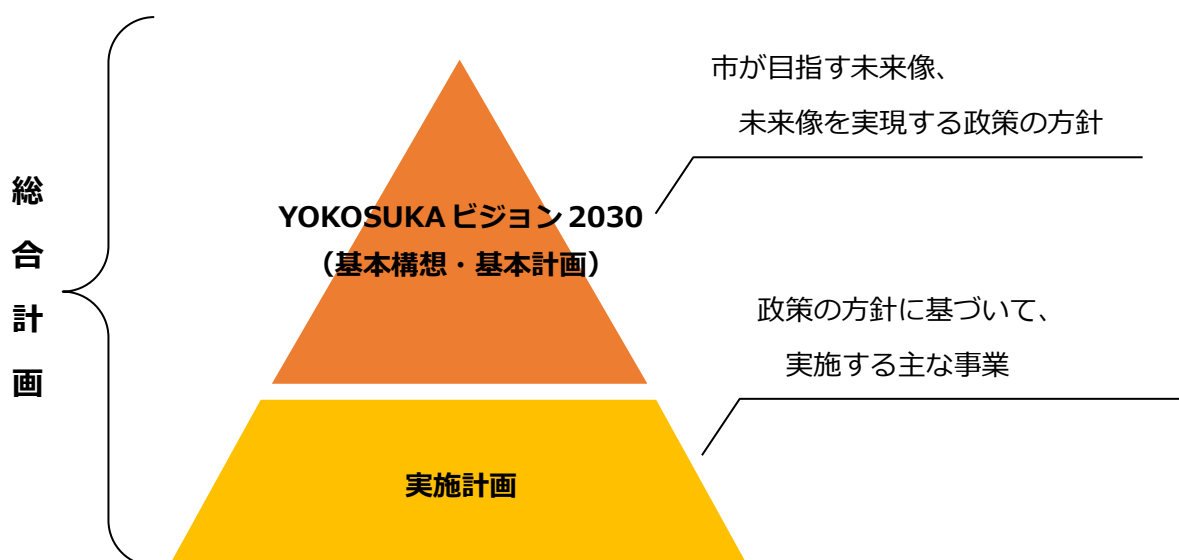
YOKOSUKA ビジョン 2030 について

(1) 計画の位置づけ

YOKOSUKA ビジョン 2030 は、市の最上位計画である総合計画の一部です。総合計画は、以前まで「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3層で構成していましたが、今回、よりシンプルで分かりやすい計画にするため「基本構想」と「基本計画」を一体にして『YOKOSUKA ビジョン 2030 (基本構想・基本計画)』とし、2層構成となりました。

YOKOSUKA ビジョン 2030 は、その2層構成の上部に位置し、市の未来像を掲げ、全ての政策の基礎となっています。また、下部に位置する実施計画では、主な具体的な事業を示しています。

図：総合計画の構成と YOKOSUKA ビジョン 2030 の位置づけ



(2) 計画の役割

YOKOSUKA ビジョン 2030 は、共有する価値観「〇〇〇〇〇〇〇〇〇」と市全体の未来像「〇〇〇〇〇〇〇〇〇」、それに基づいた 10 の分野別未来像、分野ごとの政策の方針、そして市政運営の基本姿勢を定めています。これは、市の行財政運営の基礎としての役割、さらに、市民をはじめ横須賀に関わるすべての人のまちづくり活動の指針の役割があります。

また、旧軍港市転換法に基づく旧軍港転換計画としての役割も持っています。

(参考：旧軍港市転換法)

旧軍港市（横須賀市、呉市、佐世保市および舞鶴市）を平和産業港湾都市に転換することにより、平和日本実現の理想達成に寄与することを目的として制定された法律。この法律に基づき、旧軍の財産を転用や活用する場合は、その財産に関して無償譲渡や無償貸与など、国から特別の措置を受けることができる。

(3) 計画の期間

YOKOSUKA ビジョン 2030 は、2030 年の横須賀を見据え、計画期間を 8 年間としています。また、実施計画はその間を 2 期に分け、計画期間は 4 年間です。

図：YOKOSUKA ビジョン 2030 と実施計画の期間

2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
YOKOSUKA ビジョン 2030 (基本構想・基本計画) 【8年間】							
実施計画 (前期) 【4年間】				実施計画 (後期) 【4年間】			

(4) 計画の見直し

計画期間中に社会情勢が大きく変化した場合は、見直しを検討します。

6 章

資料編
